

ドレッサージュホースに育てよう!

ピルーエット パートI

オースミイレブンの左肩が復調してから調教がさらに進み、10月にはピルーエットと2歩毎の踏歩変換まで実施しています。トレーニングでできることが競技会の経路でもできる、という単純なことではないため、今後は競技会でも実施できるように、それぞれの運動項目のクオリティを向上させる必要があります。

また10月後半の競技会では、Sクラス初出場で64%を超える結果を出すこともでき、来シーズンはFEI セントジョージ賞典に出場できるレベルまで来たことを証明してくれました。

さて、この連載ももうすぐ2年を迎える時期になり、いよいよ《ピルーエット》の話ができるレベルまで到達しました。長かったようで、あっという間でしたが、馬場馬術用馬としても、騎乗者の技術向上においても大変重要な運動です。ゆっくり考えていきましょう!



ピルーエット

ピルーエットは、内方後肢を軸に前軀を旋回させる、収縮駢歩の頂点にある運動です。収縮、バランス、後軀の力、屈曲、リズム、コントロール性など全ての要素が整い、それらが複合体となって初めて美しいピルーエットが完成します。

ピルーエットの種類

- ・ターンオンザホンチス (常歩 Lクラス 数歩の前進許容 180度旋回)
- ・半ピルーエット (常歩・Mクラス 駢歩・Sクラス 180度旋回)
- ・ピルーエット (インターメディエイトI以上 360度旋回)
- ・ダブルピルーエット (グランプリ自由演技 720度旋回)

常歩ピルーエットの準備

《ターンオンザホンチス》は数歩の前進は許されており、《常歩半ピルーエット》の前段階として考えます。この2つの運動の準備、扶助に関しては同じように考えて問題ありません。

これらは、LクラスやMクラスで実施が求められている運動項目です。しかし、競技を見ていると、この運動が非常に疎かにされていることに気が付きます。「ただ半巻きのように回ればなんとかなるでしょう～」と考えている方が多いように思います。また、たとえ上手に実施できたとしても、それを他の人に教えることができない場合も多いようです。それにより、この運動を地道に練習する騎乗者が増えず、なんとなく経路では乗り切って終わりにしてしまうことが多いように思います。非常に地味な運動ではありますが、馬の動きの全てをコントロール下に置いていなければ正しく実施できません。では、どのような手順を踏んで常歩ピルーエットを成功させていくか、実施準備と実施手順に分けて説明します。

◆常歩ピルーエットの実施準備

この運動を実施するには最初に《収縮常歩》が正しく行われる必要があります。《収縮常歩》は、ただゆっくりとした常歩を行うことではありません。前進氣勢を持ちつつ4ビートを刻み、項が高い位置にあり背中を柔らかく使い、同じリズムで動いて歩幅が短縮され、運歩が高揚している必要があります。これらのことを一つひとつやろうとしてもできるものではありません。私がいつも意識していることは、馬の頭頸を肩の上に乗せ、自分でバランスをとらせて項を高い位置にして、脚で活発に後肢を踏み込ませながら半減却を効かせることです。これを徹底することにより質の良い収縮常歩ができるようになります。

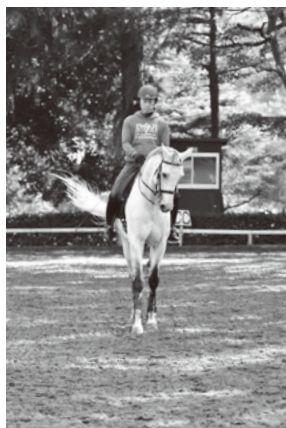
次に収縮常歩の中で《ショルダーフォア》《肩を内へ》《腰を内へ》《ハーフパス》の運動ができるようにします。これは重要なことで、馬の内方姿勢、肩の位置、腰の位置、肢の運びを自在にコントロールできるようになっていなければなりません。(Vol.11~15参照)

これらのことができるようになると、常歩ピルーエットの準備ができたと言えます。

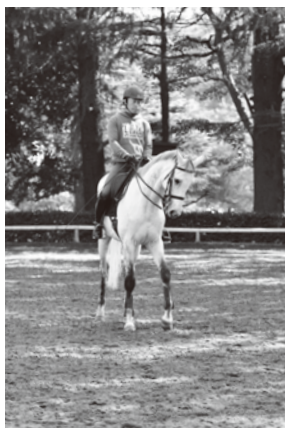
◆常歩半ピルーエットの実施手順

それでは、実際に半ピルーエットを実施するにあたり順を追って整理して考えていきましょう。

- ① 直線上（蹄跡上も可）馬体を真っすぐにして収縮常歩をする
半減却で収縮常歩での歩幅をさらに詰める
- ② ショルダーフォア～ショルダーインの体勢をとる（内方騎座に負重し、内方脚を中心に屈曲させ外方脚は後方へ）騎乗者は内方騎座に乗りながら後方へ体重移動して内方後肢の軸に乗るイメージ
- ③ 外方手綱及び外方脚で内方向（横）へ前軀を旋回させる（内方騎座・脚を中心に内方姿勢キープ）ハーフパスをする時と同じ扶助で旋回するイメージ
- ④ 1歩横へ旋回したら、内方脚と内方騎座で半歩前進させるようにする
- ⑤ 横へ、半歩前へ、横へ、半歩前へ、を繰り返しながら旋回する（内方姿勢キープ）
- ⑥ 常に内方姿勢を維持しながら内方後肢を軸にさせて前軀を旋回させる
- ⑦ 180度旋回する前に元のラインに戻り馬を真っ直ぐにして歩かせる



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦

オースミイレブンは、基本的に右側への屈曲が不得意です。そのため、予想通りですが右へのピルーエットの際には内方姿勢を維持し難くなります。

これまで色々な場面で出てきましたが、ここでも大切になるのは、《内方姿勢》です。準備から実行中に至るまで終始《内方姿勢》を維持することができるかがキーとなります。

常歩ピルーエットが上手くできると、馬の動きを全て支配しているような感覚になります。これらの感覚は、必ず駢歩ピルーエットへと繋がります。常歩でできないことは駢歩でもできません。まずは、ピルーエットの扶助を正しく身に付け、何度も失敗しては、「どうしたら自分の思い描く馬の体勢を維持しながら図形を描き旋回ができるか」を感じ取ります。馬とじっくりと向き合うことにより、我々の扶助を理解してもらい、それを馬自身に自信を持ってさせられる騎乗者になりましょう。

今回は《駢歩ピルーエット》を考えます。今回の常歩ピルーエットを基に、駢歩ワーキングピルーエットについて解説します。